

対馬における大型カメムシ4種の記録

境 良朗

対馬の大型カメムシといえばツシマオオカメムシ・チョウセンオオカメムシ・ツシマキボシカメムシが「対馬3大カメムシ」として有名であるが、本稿では近年、対馬において確認された大型カメムシについて報告する。この中には対馬で初めて記録される種も含まれる。いずれの種も移動性が高く自然侵入だと思われるが、船舶等による人為的移入の可能性も否定できない。

1) オオキンカメムシ *Eucorysses grandis* (Thunberg, 1783)

lex., 4-VII-2008, 対馬市厳原町久田 撮影・採集

lex., 10-X-2010, 対馬市厳原町豆酸崎 撮影・採集 [写真1]

南方系のカメムシで強い移動性を持っている。北海道や東北でも偶発的な記録がある。主な寄主植物であるアブラギリは上対馬町で唯一の記録があるだけであるが、センダンやハゼは広く分布しているので、今後定着していく可能性がある。

2) キマダラカメムシ *Erthesina fullo* (Thunberg, 1783)

lex., 10-IV-2011, 対馬市厳原町久田 撮影・採集 [写真2]

lex., 27-XI-2011, 対馬市厳原町久田 撮影・採集

lex., 27-IV-2012, 対馬市厳原町久田 撮影・採集

出島で採集されたものに基づき新種記載された長崎に縁の深いカメムシ。全国的に分布を広げており、対馬への侵入も時間の問題であったと思われる。広食性でサクラやウメなど寄主植物は多岐にわたる。

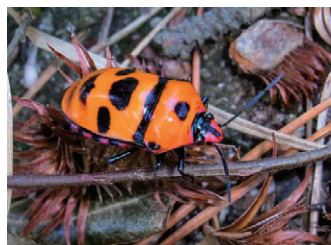


写真1



写真2



写真4



写真5



写真3左 写真3右

3) アカギカメムシ *Cantao ocellatus* (Thunberg, 1784)

lex., 10-X-2009, 対馬市厳原町豆酸崎 杉 憲 採集 [写真4]

lex., 8-IX-2018, 対馬市上県町佐護恵古 鶴野秀勝 撮影 [写真3左]

lex., 10-X-2018, 対馬市厳原町豆酸崎 西 護 撮影

lex., 4-XI-2018, 対馬市美津島町島山付近（浅茅湾の海上） 採集 西 護 【写真3右】

本種も南方系で 2009 年に初めて対馬で確認され、その後も散発的に発見される新参カメムシである。2018 年 11 月、対馬観光物産協会の西氏から、「カヤック中に海面に浮かんでいるアカギカメムシを拾った」との連絡を受け、採集された個体を頂いてきた。採集されたのは美津島町島山付近の浅茅湾海上で、飛翔中に落下したと思われる。西氏はその前の月にも豆酩崎で本種を撮影されている。この個体は前胸背側肩に一对の顕著な棘が認められた。同様の有棘型は上県町でも撮影されていたが（鶴野氏私信）、このタイプが対馬で確認されたのは初めてのことである。南西諸島では棘のある個体は少なく、熱帯域では棘が出る個体が多いという。カメムシ図鑑第1巻によると、棘の「出現頻度は日長によるといわれ」と書かれているが、どうもそんな単純なことではないようだ。今後とも注目していきたい。

寄主植物のアカメガシワは対馬では島内全域に分布するので、定着する可能性が高い。

4) アシビロヘリカメムシ *Leptoglossus gonagra* (Fabricius, 1775)

lex 撮影, 5-IX-2013, 対馬市厳原町東里 撮影 犬束幸子 トウモロコシの葉上

多数, 30-IX-2013, 対馬市美津島町加志 ニガウリ 西 弥生 撮影

多数, 5-X-2013, 対馬市美津島町加志 ニガウリ 撮影・採集 【写真5】

本種は奄美以南に生息する南方系種である。カメムシ図鑑第3巻によると和歌山県で偶産の記録があるという。長崎県病虫害予防所の報告書に平成 16 年に長崎県小浜市で発生した記録がある。（Web サイト [https:// goo.gl/zDqg4M](https://goo.gl/zDqg4M)）

対馬で初めて確認されたのは犬束幸子氏のブログに記載された個体である。この時は単なる偶産かとも思っていたが、続けて西 弥生氏のブログにも画像が掲載された。確認の連絡をすると「気づいたのは夏の終わり頃で、実家のゴーヤに付いている」ということであった。これは対馬での発生を意味する。そこで、状況をこの目で確認するため現地へ赴いた。

ニガウリから若齢幼虫の群集団～終齢幼虫が見つかった【写真6～8】。色彩も南方系の昆虫らしい毒々しさであった。成虫は1頭しか見つからなかったが、想像以上の大きさに20mmを超えていた。名前のおと、後脚脛節がヘラのように平べったくなっている。



写真6



写真7



写真8

さて、これら新参カメムシの中で気になるのがアシビロヘリカメムシである。先の県の報告書にあるように、ウリ科の植物を中心に農作物に害を及ぼす昆虫なので、早めの対策が必要である。さしあたっては、対馬の冬を越すことができるかどうか、今後の広がりはどうかなどを注視していきたい。

報告にあたり、貴重な情報や標本を提供していただいた杉 憲・犬束幸子・西 護・西 弥生・鶴野秀勝の各氏、対馬のアブラガリの分布について御教示いただいた山本武能氏にお礼申し上げる。

引用文献

安永他, 1993. 日本原色カメムシ図鑑第1巻. 全国農村教育協会
石川他, 2012. 日本原色カメムシ図鑑第3巻. 全国農村教育協会